

アスリートのためのサプリメントづくり 元ラグーマン兄弟の挑戦

スポーツサプリメントメーカー「ジャコラ」は常に高いパフォーマンスを求められるプロフェッショナル・アスリートのために生まれた、新しいサプリメントブランドである。創業者・中曾克彦(兄:マーケティング担当)、紀彦(弟:商品開発担当)両氏は共に、ラグビーの強豪で活躍したラグーマン。しかし、度重なるケガによって引退を余儀なくされた。アスリート人生を断たれた彼らは、これからのアスリートに、自分たちが経験した苦い思いを味わわせたくない一心で起業。アスリートのためのサプリメント作りに注力している。



ケガによる引退、悔しい想いを胸に

中曾兄弟はラグビー日本代表を目指し、小学生のころからラグビースクールに通い、高校・大学・社会人と一貫してラグビーの強豪で活躍してきた。ラグビーはボディコンタクトが非常に激しい競技で、重度のケガをして選手生命を絶たれるケースが非常に多い。克彦氏は、高校時代に膝の半月板損傷と靭帯断裂でリハビリを強いられ、復帰までに相当の期間を要した。紀彦氏も、社会人時代に負った首の頸椎損傷で、現役生活にペリオドを打った。ケガによって引退を余儀なくされるアスリートを数多く見てきた経験と、自身にも降りかかった境遇から「次世代のアスリートが自分たちと同じ道をたどらないでほしい」「競技でよいパフォーマンスを発揮してもらいたい」という強い意思を持ち、「For Professionals Athletes」の理念の下、商品開発に乗り出した。

クエン酸サイクルと乳酸は使える！ 第1号商品 「クエン酸POWER」

2005年の創業当初、サプリメントメーカーの代理店業務を行う傍ら、商品開発のノウハウや販路の

して含有比率を決定した。運動時に発生する脚部等の各種不具合対策にマグネシウムを配合したのは、中曾兄弟の現役時代の経験則からくるものだ。アイントニック飲料、ハイポニック飲料といった糖質補給を目的とした飲料ではなく、「エネルギーを産出して代謝を促すドリンク」として、会社設立から2年後の2007年、ゼロからスタートし、アスリートのために開発した第1号商品「クエン酸POWER」を発売した。その後、市場での評価が高まり、トヨタ自動車ウエルブリッツ(トップリーグ)、三菱重工ダイナボアーズ(トップイースト)、東海大学とラグビー強豪チームとの提携が決まり、2010年には水泳・北島康介選手・中村礼子選手を輩出した東京スイミングセンターの推奨商品として認定された。さらに、100kmウルトラマラソン世界記録保持者・砂田貴裕氏がジャコラ社のアンバサダーとして就任するなど、多くのアスリートから支持を得るに至った。

アスリートのケガ対策に焦点 「コラーゲンII POWER」

「クエン酸POWER」の発売によって、経営が軌道に乗って以降、インジュリー(ケガ)対策のサプリメントとして、「Nankotsu II POWER」を発売した。同品はそ

の後、「コラーゲンII POWER」にリニューアル。次世代型ジョイントサプリメントと銘打ち、生体が持つあるシステムを活用するために開発された非変性II型コラーゲン、ヒアルロン酸を超えた素材として注目されているプロテオグリカンを採用。さらに、成分の要として米国ジョイント市場の35%のシェアを誇る商品「OsteobioFlex」に配合されている5-Loxin(ファイブ・ロキシン)を組み込んで商品価値を高めた。

トップアスリートとの共同開発 「AMINO BOMBER」 3800」

ジャコラは2013年、サッカー元日本代表・中澤佑二選手とアンバサダー契約を結んだことで、大きな転機を迎えることになる。出会いは、スポーツショップで行われたジャコラ商品の試飲販売会だった。もともと、中澤選手がジャコラ商品の愛用者であり、本人が試飲会の場に足を運んできた。この縁から中澤選手とジャコラはコンタクトをする機会が多くなり、中澤選手が食事やサプリメント摂取による厳格な体調管理、コンディション調整における食品の重要性を理解・実践していることも知った。ジャコラとしてはトップアスリートの「生の声」を反映した形の「プロフェッショナル」商品を開発

満を持して体づくりのための プロテイン商品投入へ

投入したい考えがあり、一方、中澤選手は自らの経験をダイレクトに反映した「専用のアミノ酸サプリメント」の開発に積極的だったことから、両者の思惑は一致し、協力的体制ができた。そして、2014年、中澤選手が全面バックアップした新商品「AMINO BOMBER」3800」を発売。スポーツ医学の観点から同社独自の開発力を駆使して生まれた同品は「爆発的なエネルギーを得る」をコンセプトに、BCAA 1300mg、OCA A・1350mg、L-グルタミン他1150mg(3素材で計3800mg)に加え、5種以上のマルチポリフェノールを配合させた。パッケージも中澤選手の趣向・イメージに合わせて迷彩柄をあしらった。

開拓方法などを学びながら、現役時代の人脈をたどりつつ、新事業への展開を模索していた。商品開発担当の紀彦氏は、自身の現役時代の経験を基に、①クイックリカバリーとエナジー、②インジュリー(ケガ)対策、③体づくりの3点に絞って商品開発のコンセプトを定めた。

ラグビーの古豪・横河電機(現:横河武蔵野アトラスターズ)でコーチを務めていた紀彦氏は、アスレチックトレーナーから「クエン酸回路と乳酸の再利用は注目される」と助言されたことがあった。試合や練習の分析を進める中で、選手の運動量が一気に落ちる時間帯があり、その時間帯をどれだけ遅らせるか(体力をもたせるか)が勝負のカギになると考えていた。その考えがエネルギー産生にかかわるクエン酸回路の活性化、乳酸の再利用を最大限に生かした商品作りに結びつく。このメカニズムを応用して誕生したサプリメントが「クエン酸POWER」だ。

「クエン酸POWER」は、主成分である「クエン酸4000mg・アミノ酸(BCAA他)1000mg・「ビタミンB1・B2」・「パントテン酸」により、体内のエネルギー源と乳酸を効率よくエネルギーに変える新しいスポーツ飲料である。タンパク質や糖質がクエン酸回路にうまく取り込まれるようにすること、体内への吸収をスムーズにすることを念頭に

しっかりした上で、ボディーパーを作らなければ、すぐに故障(ケガ)してしまつことを痛く感じ、味わつており、これまでの商品の集大成と位置付けている。親交のある現役ラグーマン、田村優選手やツイ・ヘンドリック選手からの要望、問題点を含む的確なアドバイスを受けながら万全の態勢で商品を市場に投入する。

ジャコラは「人とのつながりを重視した販売手法をとる。全国各地のスポーツショップに赴き、店頭での試飲会の実施や対面での販売をすることで、消費者の反応を直に汲み取ることが出来るからだ。創業以来、この姿勢は変わらず、あくまでもアスリートのことを第一に考え、日本で行われる2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて高品質の商品提供を目指す。

◎ジャコラのドーピング対策

ジャコラから発売されている全商品について、英国の著名な検査機関(ISO17025認定)の協力を得て、140以上の成分検査で禁止物質が検出されていないことを確認している。